



有田2000 ロータリークラブ



No. 870

Club Bulletin

18-19年度 RIテーマ
【インスピレーションになるう】

会長 南 良暢
幹事 永石睦巳
クラブ会報委員長 吉水志朗

経済と地域社会の発展月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

例会日/毎週水曜日 19:00
事務局・例会場/〒643-0025
有田郡有田川町土生409
吉備インターゴルフセンター
TEL0737-52-8960
FAX0737-22-6800
E-mail: info@arida2000rotary.club
URL: http://arida2000rotary.club/

本日のプログラム

平成30年10月20日 第871回

白木海岸清掃奉仕移動例会

社会奉仕委員長 芝毅君

次回のプログラム

10月24日 和歌山放送 野々村邦夫様
11月3、4日 移動例会 彦根方面
11月7日 地区ロータリー財団委員長
和歌山北RC 初田俊生様

前回の報告（第870例会）

開催日 平成30年10月3日（水）

点鐘 南 会長
ソング「君が代」「奉仕の理想」

ゲスト
高石ロータリークラブ
第2640地区 地区社会奉仕委員長
坂東 剛様

1997年7月入会（高石ロータリー）
入会以降100%出席
2007年-8年 クラブ会長
2008年-2018-19年度 連続11年 地区出向
社会奉仕委員会（委員3回、副委員長1回、委員長4回）
ローターアクト委員長（1回）
ガバナー補佐（2回）



●会長の時間●



皆

さん こんにちは。3週間ぶりの例会ですね。台風シーズンで予定が狂いやすくて備えが大変な時期ですが頑張っていきましょう。本日は地区社会奉仕委員長の坂東剛様、遠方よりお越しいただき有難うございます。後ほど貴重な卓話をお願い致します。

本日は発想力についてお話ししたいと思えます。知識を教える教育なら、成果が如実に出るでしょう。しかし、ものの考え方となると、果たして教えることができるのかと疑ってしまいます。特に発想法なんてものを具体的に示せる

でしょうか。教育というのは結局のところ具体的な知識を詰め込むことしかできていません。才能を育てるとは、元々あった才能が活かされる場を用意するだけのことでしょう。現在の若者は常識に縛られて具体的な大量の情報によって押さえつけられています。できるのに、できないと思込まされている人が沢山居るでしょう。教育という行為は、具体的情報を押し付ける行為であって、ぼんやりと存在していた個人のイメージに対し、みんなで共有するために意味を限定する作業の集積でもあります。今の子供たちにとって大事なことは、覚えることと忘れないこと、そして正確にそれを思い出させることであって、思いつけることではありません。

発想法の教育についての正解などありませんが、いくつか手法を提示しますと、何気ない普通のことを疑ってみる、つまり普通の人が見過ごすものや、ごく当たり前のものに対して、どうして？と問いかけること、さらに、何気ない普通のことを少し変えてみる、なるほどと何か感じたら似たような状況が他にもないか想像する、いつも似ているもの、たとえられるものを連想する、ジャンルや目的にかかわらず、なるべく創造的なものに触れる機会を持つ、できれば自分でも創作してみる、というところでしょうか。

人間は生まれた時には空っぽです。考えて作り出せるといっても、それは外から取り入れたなんらかの刺激があったからです。その刺激を解釈してしまえば、それは具体的な学問になります。ものを作り出そうとする気持ちを持つだけでもの見方は変わるでしょう。世の中にすでに存在するものは全部具体的なものであり、自分がこれから作ろうとするものは、まだ存在していないのですから、最初は少なからずボヤッとしています。ボヤッとしているものから出発してそれを具体化していく行為を創と呼ぶのでしょうか。そういった見方や思考というのは、最初の発想の段階で活かされるものであって、それだけで物事がすぐに解決するわけではありません。発想が生まれた後には、論理的な思考、あるいは計算や実験による検証、具体的な対策の計画があります。この段階ではかなりの現実性が要求されます。そしてこれを実現するためには具体的な行動を起こす必要があります。その行動の過程においても時に小さな発想が必要にあるでしょう。予期せぬ問題も多々発生するので、その度にボヤッとした思考に立ち返って発想し、論理的思考と計算方法を修正していくこととなります。そういう風に考えられる頭、面白い発想、新しい思いつきが生まれる場を作ることが第一であり、そういう場というのは、すぐにいつでもできるものではなく、毎日毎日、自分の思考空間を観察して回って、具

体的な雑草を見つけたら抜いて、こんなのがあれば良いなというものの種をまく、そういう手入れを少しずつ続けてこそ、ゆっくりと次第に現れてくるものではないかと思えます。

●幹事報告●

永石睦巳君
○報告事項○

- 1・11/17 IMの案内 50%以上の出席
- 2・白木海岸清掃奉仕移動例会について (回覧)
- 3・ハイライト米山 (回覧)
- 4・例会変更 (掲示)



●職業奉仕委員会●



樋口明君
四つのテスト

●9月お誕生日●

平松一彦様
おめでとうございます☆彡



●ニコニコ箱●

南良暢君：地区社会奉仕委員長 坂東剛様 本日は遠方よりお越し頂き有難うございます。本日よりよろしくお願い致します。

永石睦巳君：坂東委員長様、本日は、宜しく願いいたします。

大浦輝彦君：みなさんこんばんは！坂東様 ようこそお越し下さいました。本日の卓話よろしくお願ひ致します。

浦崎寿光様：坂東様 本日は宜しくお願ひ致します。

前任君：地区社会奉仕委員長 坂東様 遠いところ有難うございます。

辻本正成様：坂東様 本日は宜しくお願ひ致します。

寺村公博君：坂東様 本日はようこそおいで下さいました。宜しくお願ひ致します。

川島信治君：地区社会奉仕委員長 坂東剛様 本日はお越し頂き有難うございます。

下林善信君：綺麗な花を頂き有難うございました。

●出席報告●

	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	16名	14名	87.5%
9月5日	16名	12名	75%

●卓話●

高石ロータリークラブ
第2640地区 社会奉仕委員長
坂東剛様



「経済と地域社会の発展月間によせて」

この特別月間中に求められているのは、「地域社会でクラブや会員企業、ロータリアンが積極的に職業奉仕、社会奉仕に努める事。」だと思ふ。「My ROTARY」を見ていると、いろいろなものが見えてくる。その中から、ご紹介致します。

「貧困の撲滅」は、重要な課題の一つ。世界で14億人近くが職を持っていて、その内約8億人が1日1.90ドル以下で生活している。若者のワーキング・プア率は37%を超えている。雇用における強い男女格差も生まれている。

ロータリアンは、こうした人々に生産的かつ十分な仕事の機会をつくり、経済と地域社会の発展を目指す。「人」に投資し、地域社会や人々の暮らしに持続可能で測定可能な改善をもたらす、経済発展を促すため、「貧しい地域の経済発展を促すための人々の能力・スキル向上」、「生産性の高い仕事の創出」、「支援が行き届いていない地域での貧困の削減」、「経済と地域社会の発展に関連した仕事で活躍していく事を目指す専門職業人への奨学金支援」など、世界各地で様々な取り組みが行われています。そのための資金として、財団補助金を利用する事もお考え下さい。

折角の月間ですから、奉仕活動について改めて考えてみましょう！社会奉仕委員会の立場でお話しします。

先般各クラブへ「社会奉仕活動について情報提供のお願い」と依頼し、お寄せ頂いた活動情報を拝見し感じる事が有ります。事業実施にかか

わるロータリアンが、理事役員や委員長のみといった偏りがある様に。理想は、クラブメンバー全員の関与です。数年前から、クラブ理事会の権限について大きく取り沙汰されました。その結果、奉仕事業を理事会で決めていませんか？実施の承認は理事会でしようが、事業策定は委員会だと思ひます。今、会員減少で個々の委員会構成が凶れず、委員会活動が理想的に出来ない事情も有るでしょう。もし少人数だったなら、それはそれで個々に気遣った細やかな施策も有ると思ひます。全員で活動が出来れば、それは親睦に貢献しクラブ奉仕活性化から退会防止に繋がります。全員参加で行った奉仕活動が、地域のニーズを捉え高評価を得られれば、それが噂と言う広報にもなり会員増強の際有利になるかも！社会奉仕でクラブの充実を図りませんか？

結びに、社会奉仕活動を通じ、貴クラブが益々発展されます事を祈念申し上げます。

以下は付録です。

ロータリーの「社会奉仕」、決議23-34と決議92-286について。

決議23-34(冒頭の一文)「ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、及び社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。」

採択された頃は未だ四大奉仕の分割が採用されていなかったもので、ここで言う社会奉仕とは奉仕全般を意味しています。

現在のロータリーの目的(綱領)「第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理想を実践すること。」も、当時の「一般奉仕概念」について述べているもので、現在の「社会奉仕」の説明ではありません。

現在の「社会奉仕」については、**ロータリークラブ定款第6条「3. 奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。」**と、記されています。

決議92-286(社会奉仕に関する新方針)は、1992年の規定審議会で採択されました。

これには「決議23-34」と共に使用されるという但し書きがあります。

個人奉仕と共にクラブの団体奉仕を推奨し、更にRIが積極的に奉仕の実践例を提案することが銘記されています。

ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適応することである。

奉仕の理想の実現を図るに当って、ロータリークラブの開発した各種活動が、会員の奉仕活動に意義ある機会を与えてきた。ロータリアンの指針として、また、社会奉仕活動に関するロータリーの

方針を明確にするために、次の原則が認められている。

社会奉仕は、ロータリアンひとりひとりが「超私の奉仕」を実証する機会である。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは、各ロータリアンとロータリークラブにとって献身に値することであり、社会的責務でもある。

この精神に立脚して、各クラブに対し次のように勧奨する。

1. 地域社会内の奉仕の機会を定期的に検討し、各クラブ会員に地域ニーズを評価させること。
2. 社会奉仕プロジェクトを実施するに当たっては、会員の得意とする職業上の能力や趣の力を生かすこと。
3. どのようにささやかであっても、あらゆる社会奉仕活動が重要であると認識したうえで、地域ニーズを汲み、地域内のクラブの立場や力量を勘案してプロジェクトを始めること。
4. 各種社会奉仕活動を秩序立てるために、ロータリー・クラブが提唱するインターアクト・クラブ、ローターアクト・クラブ、ロータリー地域社会共同隊、その他のグループと緊密に協力すること。
5. 国際レベルのロータリー・プログラムと活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する機会を確認すること。
6. 社会奉仕プロジェクトの実行に当っては、望ましく、また、実施可能な限り、必要とされる資金や人材の提供までも含めて、地域社会にも参加を求めること。
7. 社会奉仕の目標を達成するために、R I の方針に沿って他団体と協力すること。
8. 社会奉仕プロジェクトが一般社会の人々に十分認められるようにすること。
9. 社会奉仕活動において他の団体の共同参加を促進する触媒としての役割を果たすこと。
10. もしそれが適当であるならば、公共組織、奉仕団体、その他諸団体に、継続中のプロジェクトを委譲すること。そうすれば、ロータリー・クラブは新プロジェクトに携わることが可能となる。

以上です。

私たちが社会奉仕活動を実践する場合に留意しなければならない点は、その活動が地域社会のニーズにかなった活動かどうか。一人よがりの思いつきや憶測で援助するのではなく、本当に地域社会の人たちが必要としているプロジェクトであるかどうかを見極める必要があります。今、ロータリーでは、ポリオ撲滅を最優先課題として取り組んでいます。ポスト・ポリオとしては、識字率向上に取り組む必要があると言われています。

今世紀半ばの人口は、地球のキャパシティーを越すと言われて来ました。その結果、地球全体

の環境破壊や資源が枯渇し、貧困を原因とする地域紛争が起きたりし、今世紀後半は過度な人口と飢えと貧困と騒乱の時代になる懸念があるとも言われています。

人口爆発を抑える方法の一つが、識字率の向上です。

今月が「基本的教育と識字率向上月間」ですので、この機会に識字について理解を深めて下さい。

その他、地区社会奉仕委員会では、防災対策・エイズ問題・献血活動を推奨しています。

近い将来起こりうる可能性がある大地震に備え、今必要な事は何でしょうか？

H I Vに関する活動が、当地区内では少ないです。

身近に感じる事はないでしょうが、感染者が増えている現実があります。

若年層の減少に対し高齢者の増加、血液の需要と供給のバランス維持が難しさを増しているのは明らかです。

赤十字血液センターさんから、応援のお願いを頂いています。

従来 of 活動に増して、一つでも取り組みのご検討を頂ければ幸いです。

地区委員会は、常に皆様のお役に立ちたいと考えています。



閉会点鐘 南会長

